

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視点                  | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)                                     | 1年間の目標  | 取組の内容  |   | 校内評価   |  | 学校関係者評価<br>(2月26日実施)   | 総合評価 (3月23日実施)  |  |
|---------------------|--|---|--|---|--|--|--|---|--|
|                     |  |   | 具体的な方策   | 評価の観点   | 達成状況   | 課題・改善方策等   |  | 成果と課題   | 改善方策等  |
| 1<br>教育課程<br>学習指導   | 自立と社会参加をめざし、小中高一貫した、系統性のある教育課程の編成と、個別教育計画を活用した授業づくりを進める。 | ①個別教育計画を用いた教育システムを構築する。<br><br>②キャリア教育の視点から一貫性・系統性のある教育課程を再編する。 | ①個別教育計画作成、実践、評価のための基準を作成する。<br><br>②キャリア教育グランドデザインに基づき、日課表や学習内容等の見直しを行う。             | ①個別教育計画作成、実践、評価のための基準を作成できたか。<br><br>②一貫性・系統性の視点での日課表や学習内容等の見直しはどのように行われたか。 | ①個別教育計画作成におけるシステムを見直し、個別教育計画見直し期間を年間計画に入れ、PDCAサイクルの流れを徹底させた。校内研究でアセスメント表、指導段階表、指導内容表など便利なツールの作成、整理を行い、研究紀要「翔」にまとめることができた。<br><br>②各学部長と意見交換しながらグランドデザインの草案を作成し各学部で学習内容を整理した。高等部進路学習の内容は進路担当の協力を得ながら実践を通じて検証していくことができた。<br><br>中学部は作業学習時間、高等部は委員会活動、部活動時間の見直しを行い、次年度日課表を変更する。 | ①研究紀要は「個別教育計画の手引き」の基となるものとして、各グループから出された提案事項を来年度以降、企画係と連携して検討し、手引書としての実用化を図る。<br><br>②次年度は本年度作成した草案を基に、更に内容を精査し正式なキャリア教育グランドデザインを完成させる。    | ①個別教育計画に力を入れていることは評価できる。情報共有のツールとして有効活用して欲しい。<br><br><保護者アンケート><br>児童生徒の実態にあった個別教育計画、B以上97%(前年比6%↑)、C2%<br><br>②個別教育計画やキャリア教育が卒業後の進路にどう結びついているのか強い意識をもって進めて欲しい。<br><br><保護者アンケート><br>児童生徒に必要な授業内容 B以上90%(前年比2%↑)、C6% | ①個別教育計画の活用を校内研究のテーマとし、評価のためのアセスメント表や指導段階表など評価の基準を作成することができた。児童生徒の内面の成長等の評価方法については学校全体でさらに検討し方向性を固めていく必要がある。<br><br>②各学部長間で意見交換しながらグランドデザインの草案を作成し各学部で学習内容を整理した。グランドデザインを完成させ、系統的なシラバス作成のための計画的進捗が課題である。 | ①研究紀要は「個別教育計画の手引き」の基となるものとして、各グループから出された提案事項を検討し、手引書としての実用化を図る。<br><br>②本年度作成した草案を基に、更に内容を精査して正式なキャリア教育のグランドデザインを完成させる。  |
| 2<br>児童・生徒<br>指導・支援 | 児童生徒一人ひとりの個性や人権を尊重し、教育的ニーズに応じた的確な支援・指導を行う。               | ①校内支援チームの協働体制を確立する。<br><br>②iPad等のICT機器を授業等で効果的に活用する。           | ①学部学年が、相談担当や専門職等から効果的な支援を受けられるよう、校内体制を整備する。<br><br>②iPad等のICT機器を効果的に活用した授業や行事等を実施する。 | ①協働体制の確立はどのように行われ、どのような成果があったか。<br><br>②iPad等のICT機器をどのように活用し、どのような効果があったか。  | ①ケースに応じて校内支援チームを編成し関係機関と協働して支援の体制を整えて取り組んだ。(校内拡大ケース会58件、専門職連携67件)<br><br>②iPadを新たに17台追加し計52台を活用した。学部優先iPadを設定し、各学部に合ったアプリを導入した。<br><br><職員アンケート><br>ICT機器の活用、B以上79%  | ①各教員が支援のコーディネートスキルを身に付けられるように、協働して取り組みを進めていく。また、相談の担当分担を整理し、さらなる校内支援の充実を図る。<br><br>②iPadの使用希望や使用頻度が高まっているため、児童生徒の実態に合わせた有効的なアプリの新規導入を検討する。 | ①障害を持っていても一人ひとりの年齢に応じた支援を行って欲しい。<br><br><保護者アンケート><br>個に応じた支援、B以上90%(前年比±0)、C6%<br><br>①学校は取り組んでいるが、そのコミーシャルが足りないのではないかとPRが必要。<br><br><保護者アンケート><br>ICT機器の活用 B以上44%  | ①相談担当者と学部学年が連携しケース会を実施する体制が校内に広がり、具体的な支援方法を検討し、課題改善に繋がったケースがあった。<br><br>②児童生徒の実態にあったアプリを使用し余暇活動として毎日継続的に利用したり、行事の事前学習などで行程を映像化してイメージをふくらましたりするなど、各クラス、学年で利用頻度が増え有効活用できた。                                | ①各教員が支援のコーディネートスキルを身に付けられるよう専門性向上の研修等校内研修体制を見直し、教員相談担当分野を整理し、校内支援の充実を図る。<br><br>②iPadの使用希望や使用頻度が高まっているため、児童生徒の実態に合わせた有効的なアプリの新規導入を検討する。教員の利用と保護者の理解に差が見られる。学校での活用状況を保護者に広報し、共通理解を深める方策を検討する。 |

| 視点 | 4年間の目標<br>(平成28年度策定) | 1年間の目標   | 取組の内容  |   | 校内評価  |   | 学校関係者評価<br>(2月26日実施)   | 総合評価(3月23日実施)   |  |   |
|----|----------------------|--|--|---|---|---|--|---|--|---|
|    |                      |  | 具体的な方策   | 評価の観点   | 達成状況  | 課題・改善方策等  |  | 成果と課題   | 改善方策等  |   |
| 3  | 進路指導・支援              | 将来、児童生徒が地域社会で豊かに生きる力を育むために、発達段階に応じた積極的な進路指導・支援を行う。 | ①作業学習や進路学習等において、発達段階に応じた学習内容の充実を図る。<br><br>②進路や福祉制度等の情報を保護者に効果的に提供し、理解啓発を図る。 | ①卒業後の生活を見据えた生活スキル、社会的スキル獲得のための指導の充実させる。<br><br>②小中学部も含め、全校保護者を対象として、計画的に進路や福祉制度等の情報を提供する。 | ①生活スキル、社会的スキル獲得のための指導の充実とは、どのような内容であったか。<br><br>②全校保護者に対し、計画的に進路や福祉制度等の情報提供ができたか。 | ①作業学習実施要綱作成(中学部)、作業学習各班共通項目の平準化(高等部)、地域と連携した作業場の拡充(分教室)等発達段階に応じて学習内容を充実させることができた。<br><br>卒業後に必要なスキルについて公開研修会を教員向けと保護者向けとで対象を分け2回実施した。10月には学校評議員と教員とで、実際の支援についての意見交流も行うことができた。<br><br>②隔年発行の事業所ハンドブックを作成した。保護者のニーズに対応しながら個別やグループでの見学会を随時行い、理解を深めることができた。 | ①各学部の発達段階に合わせ、継続して作業学習のあり方や評価の仕方等について、課題の共有や検討・改善を行う。<br><br>②次年度も継続して進路だより等でも情報を発信する。見学会については保護者のニーズに合わせ引率教員のメンバーを増やし充実を図る。                     | ①(高等部)「情報交換カード」を作成し学年を超えて生徒の共通理解を図って作業学習が進められていることはとてもよい。<br><br>卒業後に必要なスキルとして自力通学の段階的な取組を進めて欲しい<br><保護者アンケート><br>発達段階に合わせた進路指導。B以上89%(前年度比4%↑)、C6%<br>②小学部段階から進路の関心が高い。卒業後どのような日常生活を送っているか積極的に見学して欲しい。<br><保護者アンケート><br>進路情報提供、B以上82%(前年度比2%↑)、C9% | ①作業学習について共通理解を図り、各学部の発達段階に合わせ作業内容を充実させることができた。卒業後に必要な力の研修会や座談会を通じて、現在の学習内容を振り返り、卒業後の生活の教員の意識が高まった。<br><br>②進路だより、事業所ハンドブック作成や、各学部学年で進路先見学会や進路説明会を実施し、計画的に進路や福祉制度等の情報提供を行うことができた。 | ①継続して作業学習のあり方や評価の仕方等について、課題の共有や検討・改善を行う。<br><br>社会で求められる能力と各学部の学習内容との整合性を図るための研修を引き続き実施し、その成果が授業に繋がるようにする。<br><br>②引き続き進路見学会や進路説明会を実施する。より多くの保護者が参加できるような有効的な広報活動を検討する。 |
| 4  | 地域等との協働              | 共生社会の実現に向け、障害のある児童生徒の理解を進めるため、地域と連携した教育活動を推進する。    | ①ボランティア活用・養成の取組を充実させる。<br><br>②本校の取組をわかりやすく地域等に発信し、特別支援教育の理解啓発を図る。           | ①ボランティア活用システムを円滑に稼働させるとともに、ボランティア養成に着手する。<br><br>②ホームページを含めた情報発信の在り方を検証し、改善・充実を図る         | ①ボランティア活用システムは円滑に稼働したか。また、ボランティア養成計画を立案できたか。<br><br>②本校の情報発信について、どのような改善・充実を行ったか。 | ①ボランティア活用の流れの基本を確立し、ボランティア人数が増加した。(学習支援9名、給食支援13名、通学見守り4名)教員対象のボランティア研修会および連絡会を実施し、ボランティア活用の共通理解と課題把握を図ることができた。<br><br>②情報発信のツールとしてTwitterを導入した。授業風景や給食、行事の様子などを画像付きでいち早く発信し、学校での取組みの内容をわかりやすく伝えることができた。538点の記事投稿、フォロワー数143名(H30.2.8現在)                 | ①ボランティア活動の地域へのPRを活発化させボランティアの募集に繋げ、活動人員を確保する。ボランティア活用法の理解を深め、さらなる授業の充実につなげていく。<br><br>②地域のニーズを把握した情報の発信を行っていく。引続き学校の様々な情報をホームページやTwitterを活用していく。 | ①地域の児童生徒が本校でのボランティア体験や交流をする機会があると良い。<br><br><保護者アンケート><br>地域資源の活用、B以上80%(前年度比8%↑)、C10%<br>②新しいものにチャレンジしていこうとする姿勢が見られる。今後も新たな取り組みを進めて欲しい。<br><保護者アンケート><br>情報発信、B以上91%、(前年度比3%↑)C4%  | ①ボランティア活用の流れの基本を確立しボランティアも定着してきた。児童生徒の様子や授業のねらい等丁寧に伝えることで理解が深まりより充実した授業を展開することができた。<br>②情報発信のツールとしてTwitterを導入し、学校での取組みの内容を分かりやすく伝えることができた。                                       | ①ボランティア活動の地域へのPRを活発化させボランティア募集に繋げ、活動人数を確保する。<br><br>②ICT機器の活用など情報共有が足りない分野の情報発信源としてホームページやTwitterを活用していく。   |
| 5  | 学校管理<br>学校運営         | 安全で安心な学校生活を支える取組を推進し、地域に信頼される学校づくりに取り組む。           | ①児童生徒の安全・安心につながる教育環境整備を行う。<br><br>②災害対策に係る地域連携、地域支援の在り方を検討する。                | ①校舎の老朽化対策、安全点検、校内美化、校内UD化を推進する。<br><br>②後援会や各種関係機関等と連携した防災・防犯体制を構築する。                     | ①安全・安心につながる教育環境の整備は、どのように行われたか。<br><br>②地域の状況に応じた防災・防犯体制をどのように構築したか。              | ①8月に保護者・地域の方と職員で大幅な整備を進めた。本校職員による計画的な点検・整備は継続中。校内表示のUD化については、検討されたが具体的な実施までには至らなかった。<br>②夏季休業中に地域の関係機関職員向けに、また2月上旬に保護者、地域の方向けにDIG講習を行った。9月1～2日に避難所を想定した宿泊型防災キャンプを実施し、様々な機関・地域の方等総勢119名が参加した。  | ①校内表示は校内合意を十分に得た上で進めていく必要がある。<br><br>②防災キャンプは安全係中心の運営から学校全体を巻き込む運営体制の確立が今後の課題である。  | ①歩行帯の色塗りにより視覚的に分かりやすくなった。<br><保護者アンケート><br>施設設備環境、B以上51%(前年度比±0)、C33%<br>②防災キャンプの取り組みは高く評価できる。<br><保護者アンケート><br>防災防犯B以上<br>B以上74%(前年度比3%↑)、C15%   | ①校舎内の整備については計画的に進め、学部エリアや歩行帯の色塗りが完了した。校内表示も含めて校内のUD化をさらに進めていく。<br>②DIG講習や防災キャンプを実施し、突然の災害に備えた避難所運営の知見を蓄積することができた。防災キャンプは学校全体を巻き込む運営体制の確立が今後の課題である。                               | ①校内のUD化について学校全体での方向性を見だし、夏季休業を利用した計画的な環境整備を実施する。<br><br>②防災キャンプの運営体制を確立する。実行委員会形式も視野に入れ検討し、地域との連携の拡充を図る。  |